会 議 録 (概要)

会議の名称	第2回佐渡市高齢者等福祉保健審議会 兼第2回佐渡市地域密着型サービス運営委員会
開催日時	令和5年9月26日(火)18時30分～19時10分
場所	佐渡市役所会議室棟第2会議室
議題	(1) 第9期計画の施策体系について (2) 地域密着型サービスの指定について
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	☒ 公開・非公開
出席者	委員：山崎ハコネ、宮崎則男、百都健、須藤信宏、本間宏彰、 永井恭子、小田隆晴、逸見美津枝、後藤信子、渡邊利明、 永田治人、中川智賀子 事務局：高齢福祉課長 出崎、高齢福祉課長補佐 菊地、高齢 福祉係長 柴原、介護保険係長 本間、介護保険係主 任 本間
会議資料	○ 事前配布資料 ・ 資料No.1 第9期計画の施策体系について ・ 資料No.2 地域密着型サービスの指定について ○ 当日配布資料 ・ 資料No.3 支給限度額に対する在宅サービスの利用割合に ついて
傍聴人の数	なし
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
菊地補佐	<p>それでは定刻になりましたので、ただいまから第2回佐渡市高齢者等福祉保健審議会及び第2回地域密着型サービス運営委員会を開催いたします。</p> <p>はじめに事前にお送りしました資料も併せてご確認をお願いします。まず、本日の次第、本日の出席状況名簿、事前配布資料No.1から資料No.2までと当日配布資料No.3が本日の資料となります。</p> <p>本日、嶋田委員、村川委員から欠席の連絡がありましたので、御報告いたします。後藤委員については、連絡がありませんが欠席されます。</p> <p>2 会長あいさつ A委員より挨拶を申し上げます。</p>
A委員	(あいさつ)
菊地補佐	それでは、議事に入ります。佐渡市高齢者等福祉保健審議会条例第4条第3項の規定により、進行はA委員よりお願いします。
A委員	<p>進行させていただきます。それでは、議事に入ります。</p> <p>(1) 第9期計画の施策体系について 事務局から説明をお願いします。</p>
本間係長	<p>事務局の本間です。よろしくお願いします。それでは、資料1をご覧ください。</p> <p>1 ページ目には、人口推計を掲載しています。令和6年から令和22年までの情報がありますが、年々総人口が減っていても、しばらくは65歳以上の高齢者人口の減り方は、あまり変わりません。また、15歳から64歳の人口が、令和12年には1万8千人台となり、65歳以上人口の数を下回る見込みです。</p> <p>2 ページ目には、高齢者人口の推移を掲載しています。令和6年から令和8年の期間で、高齢者人口は約500人減少しますが、75歳～84歳は増加します。さらに令和22年まで確認しますと、85歳以上の人口が余り減らない見込みとなっています。85歳以上は、介護ニーズが高まる世代となっていますので、その点を注視する必要があります。</p> <p>3 ページは飛ばしまして、4 ページは、国、県、他市との後期高齢者割合の比較になっています。佐渡市は、比べると最も高い水準</p>

	<p>です。</p> <p>5 ページにいきまして、世帯に関する推移です。一般世帯総数は、徐々に減少していきませんが、高齢者のいる世帯数は短期的に増加しますが長期的には微減するものと推計されます。</p> <p>また、下の図になりますが、高齢者のいる世帯の中でも、高齢者単身世帯数についても短期的に増加しますが長期的には微減するものと推計されます。</p> <p>6 ページにいきまして、要支援・要介護認定者の状況です。</p> <p>第7期から比べまして、認定者数、認定率共に減少しています。年齢や性別の人口構成の影響を除外した調整済み認定率についても、減少している状況です。</p> <p>7 ページは、国、県、他市との認定率の比較です。上のグラフ、認定率では、佐渡市が最も高いですが、下のグラフ、調整済み認定率では、他市等との状況が変わらないことがわかります。</p> <p>8 ページは飛ばしまして、9 ページにってください。第9期の要支援・要介護認定者数の推計になります。第9期の認定者数は、4400 人から 4300 人の間で推移するような推計となっています。令和 12 年では 4,146 人、令和 22 年は 3,851 人と見込まれます。</p> <p>10 ページにってください。</p> <p>こちらは第8期の施策体系です。今回、第9期計画の具体的な施策体系についてお示しできず申し訳ありません。第8期計画については第7期計画を踏襲したものでありましたが、第9期計画につきましては、国より介護基盤の計画的な整備、地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取組、地域包括ケアシステムを支える人材確保及び介護現場の生産性向上の記載を充実という見直しのポイントが示されております。これを踏まえ見直しを進めてまいります。</p>
A 委員	<p>この件について質問・意見をお願いします。 ご意見・ご質問ございませんでしょうか。</p>
B 委員	<p>前回の審議会でもかなり通所介護でありましたりショートステイが利用者の減少ということがあり、地域密着型サービスに移行したりということが近年多くなっている。新型コロナウイルス禍でありましたり世界的な物価高騰によるコストの増ということで運営して</p>

	<p>いる法人としては厳しい。通所系の委員はいないですが福祉部門で参加していますので、介護保険制度が始まって20年経過しています。その当時、デイサービスは公設民営ということで建物が大きな規模で作られていますし、20年から30年を経過し維持をしていくことがかなり厳しい状況です。コストが増加している・利用者が減少している。通所介護の整備、ショートステイも関連してきますが、中には事業を廃止したり休止したりしますと在宅サービスを受けられない地域が出てくるのではないかと感じています。第9期計画にも在宅サービスを受けられなくなるのではと危惧をしています。当時作られた公設民営、在宅サービスが限られた地域においては行政からの支援が必要ではないかと感じています。高齢者数はあまり減らないが認定者数は減ってきている。これまでとは違うニーズが予想されます。佐渡は20年30年先を進んでいると言われますが佐渡独自のサービスや方策を考えていく必要があると思います。</p> <p>高齢者福祉事業の推進について配食サービスは佐渡市では週2回（両津地区においては週3回ということになっています）。10年前に比べると100人くらい増加している。配食の確保、佐渡市では安否確認も兼ねているが食の確保も重要ではないかと感じています。介護予防や地域包括ケアシステムの一部としても大切な役割を担っている。配食サービスの提供の回数の拡充も第9期計画では検討が必要。回数を拡充すれば利用者負担が増えたり運営管理のICT化も必要。高齢者の食の確保が重要ではないかと感じます。</p>
A委員	事務局から何かありますでしょうか。
本間係長	はい。現状施設の整備について佐渡市独自の補助金はありません。配食サービスについては第9期計画の中で議論していきたいと思っています。
A委員	<p>そういうことは文書の中に組み込んでください。2040年には佐渡市の介護はつぶれるのではないかと予想されております。一つは介護士がいなくてニーズが少なくなってくる。つぶれないような公的な援助等が必要になるとの文書を付け加えてもらいたい。</p> <p>1点、調整済み認定率について説明して欲しい。</p>
本間係長	<p>この場で計算式はお示しできませんが、年齢や性別の要件を除いたものが調整済み認定率になります。</p> <p>都市部では高齢者の中でも若年層が多いため認定率が低くなりますが、佐渡市では後期高齢者が多いため認定率が高くなります。</p>

C 委員	認定率は5歳で倍になる。70歳から75歳で倍。75歳から80歳でその倍になる。
D 委員	前回の審議会の資料に計算式はありませんが説明がありました。
A 委員	年齢とか性別の影響を加味すると調整済み認定率はスタンダードだということによろしいですね
本間係長	そのとおりです。
A 委員	他に何かございますか。よろしいでしょうか。 事務局の提案通り第9期計画の施策体系を設定することでよいといたします。 では、次の議題に進みます。 地域密着型サービスの指定について事務局から説明をお願いします。
本間主任	資料2をご覧ください。 1ページを開いていただきまして、令和5年10月1日から事業を開始しようとしている地域密着型通所介護事業所です。佐渡市の畑野地区にあり、現在、通所介護事業所として運営をしていますが、利用定員を18人に減らすために、現在の通所介護の指定を廃止して、改めて地域密着型サービスとして指定したいと考えております。 運営するのは、(福)佐渡市社会福祉協議会です。デイサービス、ヘルパー、グループホーム等の事業所を運営しています。 2ページ目、事業所は、佐渡市栗野江1837番地にあります。 事業所の名称は、「畑野デイサービスセンターやわらぎの里」であり、現在と変更ありません。 利用者定員は現在30人のところ18人になります。事業所に確認したところ、現在利用中の方が近隣の新穂デイサービスを利用させていただくことで、定員が一杯になり利用できないということはないとのことです。(利用者に内諾を得ている) 従業員は、基準上の必要人数を満たしています。設備も、食堂及び機能訓練室の面積が約138㎡あります。

	<p>3 ページ目に勤務形態一覧表、4 ページ目に平面図を載せてあります。5 ページ目から運営規定を載せてあります。8 ページ目の下をご覧ください。通常の事業の実施地域を載せてあります。</p> <p>地域密着型サービスでは地域との連携が大事とされているため、運営推進会議を設置する必要がありますが、その会議の設置も予定されています。事業所から地域密着型通所介護への移行について利用者に説明したところ、理解は得られているとのこと。地域密着型事業所の指定基準を事務局で確認した範囲では、指定に問題はありますが、第8期介護保険事業計画には、今回の指定を見込んでいません。しかし、全く新しい事業所ではなく、この地域における必要な介護資源ととらえています。以上で説明を終わります。</p>
A 委員	利用率が低下したためということでしょうか
本間主任	そうです。平均利用者数も令和4年は21.9人、令和5年は18.3人であり30人の定員を割り込んでいる。
A 委員	わかりました。18人に減らすことにより、働く介護士等少なくて済むということですか。
本間主任	そうです。
A 委員	多くの事業所でこのような状態になってくると思われませんが、ご意見ありますでしょうか。やわらぎの里は築何年たつのでしょうか。
出崎課長	平成6年10月1日開設です。
A 委員	30年弱ということですね。
D 委員	<p>介護支援事業所のケアマネジャーとしてですが、指定についての文章の中に近隣の新穂デイサービスセンターを利用していくこととありますが、一つの選択肢として一番近くの事業所がここだというだけですよね。</p> <p>公正中立にサービスを選ぶのは利用者や家族であって事業所を指</p>

	<p>定するというのはしないように気を付けていることであって、10月1日から開始ということは、すでに調整が済んでいるものと思うのでケアマネジャーとしても業務は終了している。18人の定員のうちにスケジュールが組まれているという体制は整っていますか。</p>
A委員	<p>その通りだと思います。新穂ではなく他のデイサービスとの記載に修正してください。</p>
本間主任	<p>はい。</p>
A委員	<p>地域密着型サービスとして指定するという事によろしいでしょうか。(異議なし)では地域密着型サービスとして指定します。これで本日の議事は終了しました。</p>
菊地補佐	<p>A委員ありがとうございました。 続きますがその他になります。資料NO.3について事務局より説明します。</p>
本間係長	<p>第1回の審議会の折に佐渡市の方が介護サービスの利用が金額的に少ないとの話がありました。そこで支給限度額に対する在宅サービスの利用割合ということで今回資料を示させていただきました。要支援の方につきましては全国に比べ少し多く要介護の方につきましては少ないという状況になっております。</p> <p>こちらについていくつかの事業所に聞き取りをさせていただきました。</p> <p>支給限度額に対してサービス費が低い理由として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レンタルや住宅改修による環境整備により暮らしが改善しサービス費が抑えられている。 ・本人の拒否がありレンタル以外のサービスを入れられない。 ・デイサービスは機能訓練より入浴をメインに家族が考えるため利用回数が少なくなる。(週2回でよいなど) ・そもそも必要性がない。との話がありました。 <p>お金の話をされるケースもあるとのことですが、社福軽減や高額介護サービス費があるので制度を説明してサービスを入れている。家族の負担とお金を天秤にかけると家族負担の軽減を取る方が多い。また、最近はお金の話を言われたいとのケアマネもいらっしゃいました。現状ではお金の問題がすべてではなくそれ以外の方が多いと考えられます。</p> <p>サービスの傾向としては</p>

	<p>・家族が日中いる世帯ではサービスの必要性は低いですが、日中いなかったり独居ではサービス利用が多くなり支給限度額を超えるケースがある。ということで聞き取りをさせていただいております。</p>
A 委員	C 委員
C 委員	<p>支給限度額に対する在宅サービスの利用割合というのは施設ではなく在宅での利用のもので、施設の利用が多ければ在宅サービスは少なくなる。その辺はどうですか。</p>
本間係長	<p>佐渡市は全国の中でも施設サービスが充実している。</p>
C 委員	<p>入所系サービスを利用している人が多いということか</p>
本間係長	<p>多いです。介護度が上がれば在宅サービスを使う割合が下がる。</p>
C 委員	<p>色々な環境が整備されている。デイサービスでは入浴サービスが多く限定的に使う方が多い在宅の場合は。</p>
本間係長	<p>そうです。ケアマネジャーからそのような聞き取りをしました。</p>
C 委員	<p>支給限度額に対する在宅サービスの利用割合は少ない。金額が少ないということですね。</p>
本間係長	<p>支給限度額の上限がありそこまで使えば金額は高くなり、使わなければ低くなります。 要介護3以上であれば施設サービスが増えてきます。</p>
C 委員	<p>他の地域も同じではないのですか</p>
本間係長	<p>佐渡市では施設が充実している。 都市部では有料老人の割合が多い。その点も違いが出てきていると思います。</p>
A 委員	<p>佐渡市では介護度が上がると入所する人が多い。</p>
本間係長	<p>佐渡市では単身高齢者世帯が多く、佐渡市で施設の空きがあれば施設入所します。島外の有料老人ホームに住所地特例ということで入られるケースも増えてきております。</p>
菊地補佐	<p>それでは全体を通してご意見等ございますでしょうか</p>
A 委員	<p>今回資料の配布が遅かった。 佐渡市の郵便は一度新潟で仕分けをして配送するため時間がかかる。</p>
菊地補佐	<p>それでは会議を終了いたします。円滑な進行にご協力いただきありがとうございました。</p>